株式会社USEN-NEXT HOLDINGS × 沖縄県うるま市

株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS コーポレート統括部 大野 晃平さん 山本 まりもさん 人事部HR戦略課長

沖縄県うるま市役所 玉那覇 謙太さん 経済産業部

沖縄県で新しいワーケーション 「ワーケーション×サステナビリティ活動」プログラムを実施



USEN-NEXT GROUP 主催 クリーンピック@うるま市

株式会社USEN-NEXT HOLDINGS

未来を今に近づける、"ソーシャル DX カン パニー"として現在25の事業会社を傘下 に、店舗サービスやコンテンツ配信、通信 エネルギー事業など様々な事業を展開する グループ企業。従業員数約4.900名(連結)。 内閣府主催「地方創生テレワークアワード」 では「地方創生担当大臣賞」を受賞。



🚅 沖縄県うるま市

人口約21万人。沖縄本島中部に位置し、那 覇市、沖縄市に次いで沖縄県で3番目に 人口が多い都市。市内にある勝連城跡は、 2000年には「琉球王国のグスク及び関連 遺産群」の一つとして世界遺産に登録。

プロジェクト担当者



大野 晃平さん

株式会社USEN-NEXT HOLDINGS コーポレート統括部 人事部HR戦略課長



山本 まりもさん

株式会社USEN-NEXT HOLDINGS コーポレート統括部 サステナビリティ推進室長

プロジェクト担当者



玉那覇 謙太さん

沖縄県うるま市役所 経済産業部 産業政策課

取組概要

5日間の「Workcation for Sustainable」 を2回実施

株式会社USEN-NEXT HOLDINGS (以下、UNHD) は、働き 方改革と地方創生という観点から新潟県長岡市と連携して、長岡市 で暮らしながら首都圏企業に就業する人を応援する「NAGAOKA WORKER」というプロジェクトを2021年から実施しています。こ のプロジェクトが内閣府主催「地方創生テレワークアワード」の【地 方創生担当大臣賞】を受賞しました。このような評価などが企業ブラ ンディングにもつながったこともあり、他の地域への横展開による地 方創生への貢献を目指して取り組んでいます。

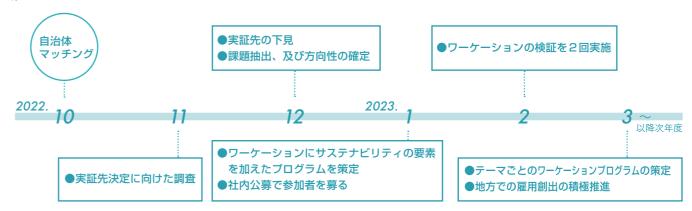
また、USEN-NEXT GROUP内では早くからリモートワークを導 入していることや、サステナビリティ活動に積極的に取り組んでいる ことから、本事業ではこれらを掛け合わせ、ワーケーションの中に「サ ステナビリティ活動を通して地域に貢献する」ことを目的としたプロ グラムを取り入れ、新しいワーケーションプログラム「Workcation for Sustainable」を企画、実行しました。その中で「ワーケーショ

ンによる生産性の向上」と「社員の地域やサステナビリティ活動への 興味関心」等を検証しました。

対象地域は、USEN のコールセンターが沖縄県内にあることや、 2022年には沖縄県内に USEN の DX サービスをトータルラインアッ プで運営する店舗をオープンしていること、社内でも自発的に沖縄県 の課題を考えるなどの動きがあることから、沖縄県うるま市が選ばれ ました。また、本事業前から UNHD ではサステナビリティ活動の 1 つとして、沖縄県読谷村でさんご保護活動を行っている有限会社海の 種が運営する「さんご畑」の支援をしており、そこでのサステナビリティ 活動もあわせて行うこととなりました。

5日間のプログラムを2回に分けて実施し、計16名の社員が参加 しました。業務時間とは別にサステナビリティ活動を行い、3日目に はうるま市で行政職員や学生も参加したビーチクリーン活動と懇親会 を行いました。その後4日目には、読谷村に移動し、有限会社海の種 代表の金城浩二さんの講演や、「さんご畑」の視察、さんごの苗づくり 体験を行いました。

実証スケジュール



参加者の声



塚田 涼太さん 株式会社USEN 営業本部 営業企画部



畠山 彩子さん 株式会社USEN Smart Works 業務企画部

今回の企画では、仕事をしながら地域のために何か役に立つことが出来るということで応募しました。ビーチク リーン活動では、想像以上にゴミがあり悲しい気持ちにもなりましたが、普段接することが出来ないグループ内の 他の会社のメンバーや行政職員、学生といろいろな話をしながらゲーム形式で楽しく活動できたのは良かったです。 また、自社がさんごの保護活動をしていることを今まで知らなかったので、今回その現場を実際に目の当たりにして、 より誇りに思うようになりました。今後は、自社がサステナビリティ活動をしていることをお客様などに自信を持っ て伝えられると思います。

ワーケーションとして仕事面では、リモートワークでも場所を問わずに普段通り働けることを体感しました。普 段週4日はオフィスに出勤し、週1日は家でリモートワークをしていますが、今回のように間にイベント等が入るこ とで気分転換もでき、生き生きと働けたと思います。

沖縄には何度も訪れていて、その度にさんごが減少しているのを実感していたので、何かできることはないかと 模索していたときに、今回の企画を知り、ビーチクリーン活動などで沖縄の海に恩返しがしたいと参加しました。

実際に参加してみて、まずグループ内のさまざまな会社の参加者と、コミュニケーションが取れて、お互いの扱っ ているサービスなどについてとても勉強になりました。また沖縄に何度も来ていましたが、うるま市には初めて来

ることが出来ました。仕事の面では、少し WI-FI の環境が気になりました。普段はなかなか会社として行っている 活動に社員が携わる機会が少ないと思うのですが、今回ワーケーションの中でさんごの保護活動などのサステナビ リティ活動に携わることが出来て、会社に対する想いがさらに強くなったと思います。

実証結果

グループ間の社員の交流と グループ全体へのエンゲージメントの向上

今回のワーケーションにどれほど UNHD グループ内で 興味が集まるか企画前は予想ができませんでしたが、応募 を始めると参加人数の約10倍の申し込みがあり、候補者 を選ぶのに苦労する程でした。このようなワーケーション、 「サステナビリティ活動」に興味を持っている社員が多く いることがわかったのが良い気づきとなりました。

またワーケーションの生産性という観点から見ると、基本的には問題はなかったのですが、場所によっては通信環境の問題や、ワークスペースの選択肢が少なく、場所によっては閉鎖的で狭く他の社員の声が気になってしまうなどの課題があがったので、今回だけでは生産性の分析は難しいと感じています。ただ、今回グループ内の複数の会社から年齢層や勤務地、職種が異なる社員が参加したことで、お互いの会社やサービス内容の理解にもつながり、自発的な勉強会なども生まれて、社員の交流や学びの面ではとてもよかったと思います。

「サステナビリティ活動」という面では、私たちグループが行っているさまざまな活動の1つとして沖縄県のさ

んご保護活動の支援を行っており、その活動を社員が実際に体験してくれたことで、サステナビリティを自分ごととして捉える機会になり、それが社内の他のメンバーにも伝わっていくのでは、と期待しています。サステナビリティ活動などを通して、グループの垣根を越えた交流や、所属する会社だけではなくグループ全体への社員のエンゲージメントが向上したと感じました。

今回、ビーチクリーン活動をすることは決まっていましたが、どの海岸でゴミの課題があるかなどは私たちでは把握するのが難しく、行政の方のサポートをいただきました。やはり現地のことは現地の人に聞くというのが一番だと実感しています。そして、行政職員、また地元大学の学生団体が参加して一緒にビーチクリーン活動を実施できたことで、その後の懇談会でも活発なコミュニケーションが生まれ、行政とも学生団体とも良い関係が構築できました。

また、学生からは「UNHD がサステナビリティ活動をしている企業だと初めて知った」という声も聞かれ、そこから興味を持って UNHD の採用にエントリーをした学生もでてきました。学生の中で企業のサステナビリティ活動が企業選びの1つの選択肢になり得ることを改めて実感し、今後の採用活動の参考になりました。

うるま市では一昨年からワーケーション誘致の取り組みを始め、まずはフリーランスや企業の中の個人を対象に年間で50人ほどお呼びしていました。そして次の段階として企業の福利厚生の活動部分で対象を広げられないかというタイミングで本事業が決まりました。ですから、今回の取り組みがうるま市でのワーケーションの良い事例になったと思います。よく企業側から、「ワーケーションの中で地域貢献活動をしてうるま市に還元したい」という声もいただきますが、どういう活動を紹介すればよいのかわからない部分がありましたので、今回はUNHDの方からビーチクリーン活動という企画を出してくれてとても助かりました。さらに、学生団体の参加もあり、産官学の取り組み



「さんご畑」にてさんごの苗作り体験

としての良い事例にもなったと思います。今まで行政として学生とのつながりが弱い部分もあったので、今回の活動を機に、学生団体とも連携出来たらと思います。

また、今回ビーチクリーン活動に職員も参加したことで、 その後にある懇親会でもざっくばらんに話すことができ、 うるま市の困りごとやそれに対するアイディアなども意見 交換が出来たので、とても良かったです。ぜひ今後もワー ケーションでのビーチクリーン活動を継続していただき、 その際にはサポートを行いますので、今後よりつながりを 深めていきたいです。

沖縄県 うるま市役所 経済産業部 産業政策課 玉那覇 謙太さん



さんごについての講習を受けながら、さんご養殖技術を体験できるプログラム

	実施前	実施後	
実証実施前に期待	•	•	採用の優位性の確保(優秀人材の確保)
		•	地方人材の採用・育成
		•	地方移住を希望する従業員の離職防止(テレワークによる就業継続)
	•	•	従業員のワークライフバランス向上
	•	•	福利厚生等を目的としたワーケーションの推進
	•	•	従業員の発想力・創造性向上によるイノベーション創出
し	•	•	従業員同士のリアルなコミュニケーション機会の提供
効		•	仕事の品質や効率の向上を目的としたワーケーションの推進
た効果と実際	•	•	企業イメージ・企業価値の向上
実	•		地方オフィス活用(+都市圏オフィス縮小)による家賃コスト等の削減
際 の_	•	•	地方自治体や地方企業との関係構築・新規ビジネス創出
の成果	•		災害等のリスク分散による事業継続性アップ
未	•	•	地域貢献、地方創生 (東京一極集中を是正し、地域を盛り立てること)への寄与
			その他

■ ■ ほぼ、想定通りの効果が得られたが、地域との具体的な関わりについては今後の取組となる



カラーでチーム分けをしてビーチクリーン活動



有限会社海の種が運営する「さんご畑」

企業としての展望

今回の新しいワーケーションプログラム「Workcation for Sustainable」を実施してみて、地域の方々や学生との交流が参加した社員一人ひとりのエンゲージメントにも大きく繋がったと思っております。

また、参加した社員だけではなくグループの社員が「新たな働き方」や「新しいコミュニティ」を求めていることを実感できたり、地方での採用活動への効果など、多方面で成果を出すことが出来たと思っております。

地方の社会課題や新たな雇用創出への貢献など、地域と企業の交流による「新しいシナジー効果」を生むことができ、今回のプロジェクト結果を参考に、今後も自社の働き方の検討はもちろんのこと、地域との交流機会を広げていく活動を継続していきます。



取材日:2023年2月22日